



Department of Kansei Science, Graduate School of Integrated Frontier Science, Kyushu University

九州大学大学院統合新領域学府

ユーザー感性学専攻

専攻案内

# 統合新領域学府について

科学的探求の中から絶え間なく生み出される知は、人類に物質的な豊かさをもたらすとともに、新たな学問分野の創出と発展をも促してきました。知が知を創るこのスパイラルによって、人類のみならず、科学自身も高度化と進化を遂げてきました。一方で、学問分野の専門分化が進み、いまや専門領域を超えた知の交換や相互理解が困難をきたすようになりつつあります。これは知的探究への反作用ともいべきものです。

現代社会においては、一学問分野の知だけでは解決し得ない多面的な課題がつつぎと生じています。いま問われているのは、知の専門分化を受け入れながらも、それがもたらす反作用を抑え、新たな科学的な知を産み出す知識創造の仕組みを構築することです。

統合新領域学府は、新たな科学のフロンティアを開拓し、また科学的な知を再編、統合するための知的探究と教育の枠組みとして開設されました。統合新領域学府は、先端科学分野の専門的な知の探究と交換による「知の統合」から、新しい知を創造することを目指しています。

統合新領域学府は、従来の学問の縦割りでは捉え難い、複合的かつ根源的な新しい課題に挑み、その知的成果を社会に還元するとともに、そのような知の担い手として活躍できる高度な専門人材を育成する役割を担っています。

## 統合新領域学府の構成

統合新領域学府は、「ユーザー感性学専攻」と「オートモーティブサイエンス専攻」「ライブラリーサイエンス専攻」の3つの専攻で構成されています。

### ユーザー感性学専攻

知の活用主体であるユーザーの視点から、また感性を基盤とする人間理解の上に立って、感性価値の創造を推進する高度な専門人材の養成を目的として設立された大学院専攻です。文理を超えて多様な専門領域を横断し、感性の科学的解明から価値創造まで網羅的に扱う大学院専攻は世界に類を見ません。修士課程3コース、博士後期課程を設け、深い人間理解とユーザーの視点に立った価値創造を先導できる人材の育成を目指しています。

(2009年4月修士課程設置、2011年4月博士後期課程設置)



### オートモーティブサイエンス専攻

オートモーティブという視点から、自動車と先端技術、自動車と人間や社会、自動車と環境・エネルギーなどの先端的で複合的な課題を知の統合によって解明し、新しいオートモーティブ社会を創造する高度な専門人材を養成することを目的として設立された大学院専攻です。5分野を設け、幅広い分野で活躍できる人材の育成を目指しています。

(2009年4月修士課程、博士後期課程設置)



### ライブラリーサイエンス専攻

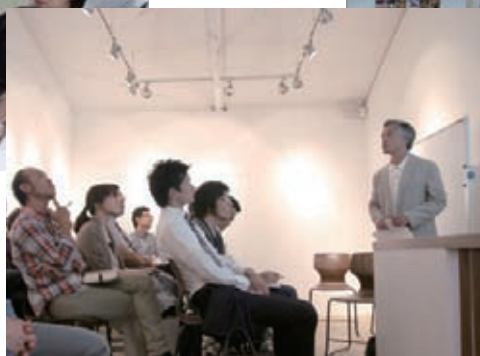
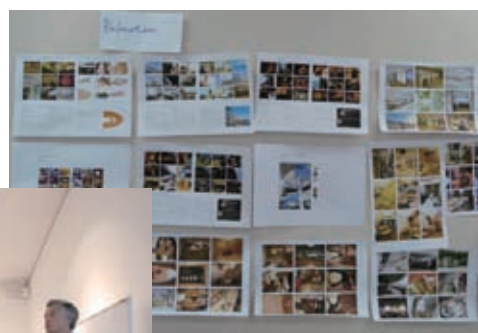
ライブラリーサイエンス専攻は、ユーザーの視点に立った情報の収集・管理・提供を行い、知の創造と継承活動を支える新たな「場」に求められる高度な専門人材を養成することを目的として設立された大学院専攻です。

(2011年4月修士課程設置、2013年4月博士後期課程設置)



# 目次

ユーザー感性学専攻について	P1
ユーザー感性学専攻各コースについて	P3
感性科学コース	P4
感性コミュニケーションコース	P5
感性価値クリエーションコース	P6
Project Team Learning(PTL)とは	P7
開講科目(修士課程)	P9
開講科目(博士後期課程)	P10
入試案内(修士課程・博士後期課程)	P11
産学／地域連携・共同研究	P12
専任教員の紹介	P13
キャンパス、アクセスマップ	P15



今日、企業、行政、地域を問わず、社会が直面する問題はますます複合化し、ユーザー、消費者、市民のニーズは成熟化、多様化しています。こうしたなかで、社会に貢献し、価値創造を牽引する人材は、専門的な知識に加え、社会の変化をリードする豊かな構想力と実践力、さらに多様な分野の知識を統合し、チームをまとめ、プロジェクトを推進していく人間力が求められます。また、社会が直面する問題の解決にあたるためには、大学を中心に蓄積された学術知と社会に蓄積された経験知を実践的に統合していく必要があります。

# ユーザー感性学専攻について

感性の研究教育を通じ、さまざまな知をユーザーの感性と融合させ、個人と社会の満足を創造できる新しい高度専門人材を育成します。

ユーザー感性学専攻 (Department of Kansei Science) は、感性の研究教育を通じ、さまざまな知をユーザーの感性と融合させ、個人と社会の満足を創造できる新しい高度専門人材を育成します。

本専攻における「ユーザー」とは、自然、社会、人文科学や技術の知を使い役立てる個人、グループ、組織などを指します。

また、「感性」を外界の事象（人・もの・こと・場）に対する感受性および感受性に基づく統合的な心の働きと定義し、その感覚的、感情的、直感的、創造的という特性に注目し、ユーザーの視点に立った人間理解を目的とする教育研究を「ユーザー感性学」と定義します。

学生1人ひとりの出身分野や関心領域に応じた、きめ細かい履修指導。

実社会の現実の課題に対し、その解決を目指してチームで取り組む、

PTL (プロジェクトチーム演習) およびインターンシップにより、実践的な知の修得を促す。

本専攻は、広範な分野の大学卒業生、大学院の修了者および在籍者、企業、行政、NPOの実務に携わっている社会人など、多様な専門性と背景を持った人材を受け入れます。そのため、指導教員は、学生1人ひとりの出身分野や関心領域に応じて、きめ細かい履修指導を行います。

また、修了後の社会での活躍やキャリア像を念頭に効果的な学習計画を立てていくために、多様な履修モデルを用意しています。さらに、実社会の現実の課題に対し、その解決を目指してチームで取り組む、PTL (プロジェクトチーム演習) およびインターンシップにより、実践的な知の修得を促します。

「感性を科学的な視点から捉えることのできる力」

「人と人、人との、人と環境のあいだの関係性を感性の視点から豊かにできる力」

「ユーザーの視点に立って感性価値創造のプロセスをマネジメントできる力」

ポスト工業化社会、少子高齢化、グローバリゼーションの進展を背景に、知を統合してユーザーの感性と融合することにより、ユーザーの福祉、満足を實現して、新たな科学、社会、経済を築いていく人材が強く求められています。本専攻では、その際に欠かせない企画力、コミュニケーション力、協働力、指導力などを涵養します。

それは、「感性を科学的な視点から捉えることのできる力」、「人と人、人との、人と環境のあいだの関係性を感性の視点から豊かにできる力」、「ユーザーの視点に立って感性価値創造のプロセスをマネジメントできる力」を養うことです。

「感性」に相当する用語は欧米にはありません。

「感性」についての教育研究は、我が国が先導的に展開できる可能性をもった領域です。

感性は、直感的、曖昧、不確実という特徴があることから、分析や論理をベースとする近代的な知性の陰で学問的な検討や科学的な検証対象になりにくい面がありました。しかし、近年の社会や人々の価値観の変化にともない、人間の認知や行動、創造や消費に、意識・無意識の両面で影響を与える感性についての教育研究の必要性が注目されるようになりました。

感性は、感受性 (sensibilities)、印象 (impressions)、心地 (feelings)、感情 (emotions)、感度 (sensitivities) など、幅広い含意を持つ概念です。欧米では感性に相当する用語そのものが見当たらないなど、感性についての教育研究は、我が国が先導的に展開できる可能性をもった領域です。

本専攻では、次の4つのミッションを設定しています。

### ●世界の先導的な教育研究拠点の構築

国際的な研究拠点構築を目指したユーザーサイエンス機構の成果を引き継ぎ、感性を「科学」「コミュニケーション」「価値クリエーション」の3つの視点からとらえ教育研究を行う拠点を構築します。

### ●実践型教育の実施および大学と社会の連携

企業や行政、地域社会に入り、現場が抱える課題を体験することや、現実的な課題にチームで取り組み、問題発見、仮説設定、集団的な知識創造、解決策提示のプロセスを実践、推進できる人材を育成します。

教育プログラムに、企業や行政の協力・参画を得ることで、企業や行政は新鮮な発想に触れ、大学は共同研究などを通して、社会との新しい関係を構築していきます。

### ●リベラルアーツ科目履修の推奨

知識や技術の修得に加えて、幅広い見識と教養を身につける哲学、美学、倫理学、宗教学、歴史学などのリベラルアーツ科目の履修を推奨し、人の感情や物事の本質を理解し、組織を動かす、リーダーシップを発揮できる能力を涵養します。

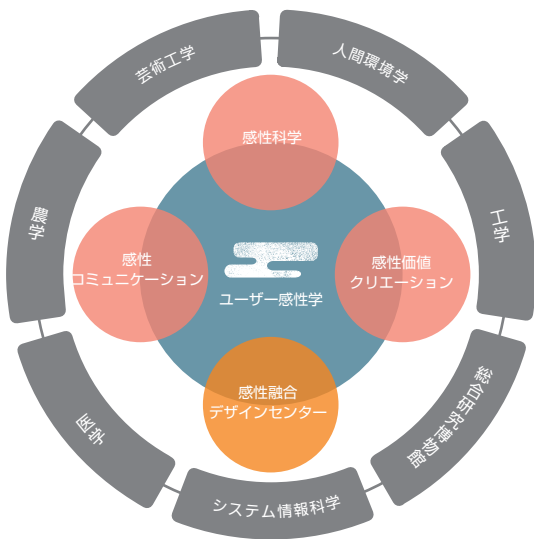
### ●大学間共同プログラムの推進

感性についての教育研究を効果的に展開し、全国的に発展させ、社会・文化の基盤として定着させていくために、関連する国公私立の複数の大学による連携を推進し、大学の壁を超えた教育研究資源の活用を図ります。



# ユーザー感性学専攻各コースについて

本専攻修士課程は、感性科学コース、感性コミュニケーションコース、感性価値クリエーションコースの三つのコースで構成されています。それぞれのコースが連携をはかりつつ、1) 知の送り手と受け手（ユーザー）の連携の推進、2) 感性の機能の解明、3) 感性に基づく親密で信頼ある人間関係の構築、4) 感性による経済価値の創造を推進しています。また、本専攻の設立と同時に感性融合デザインセンターが設立され、感性とユーザーを結びつけるための活動が行われています。



九州大学の7分野にわたる研究院と博物館に所属する教員が集結し、知の統合を目指しています。

## ● 感性科学コース

感性を科学する  
感覚および感情の研究を通して、価値基準の基盤となる感性を探究する。

## ● 感性コミュニケーションコース

感性を育み表現する  
感性を基盤としたコミュニケーション力・共感力の育成

## ● 感性価値クリエーションコース

感性価値を創造する  
ユーザーの感性的な価値を抽出・形成・評価する手法と、一連の過程を統合するマネジメントについて学ぶ。

## ■ 感性融合デザインセンター

人間の感性を芸術的・科学的に捉え、表現することの高度な教育研究を行うとともに、芸術的感性と諸科学との融合による新しい価値を創造し得る学際的教育研究を推進する。「ユーザー感性学専攻」におけるPTLプログラム、インターンシップの支援を行います。

## 博士後期課程の設置

平成23年4月から、博士後期課程が設置され、ユーザー感性学に関する高度な教育研究を実施する体制が整いました。博士後期課程は専門性の「特化」だけでなく、3コースの「統合」をはかることを目的としています。

**授与学位：**本専攻の修了者は下記の学位のいずれかを取得できます。  
感性と名の付く学位が取得できる数少ない大学です。

課 程	学 位	
修士課程	修士（感性学）	Master of Kansei Science
	修士（芸術工学）	Master of Design
	修士（工学）	Master of Engineering
博士後期課程	博士（感性学）	Doctor of Kansei Science
	博士（芸術工学）	Doctor of Design
	博士（学術）	Doctor of Philosophy in Kansei Science

# 感性科学コース

感覚および感情の研究を通して、価値基準の基盤となる感性を探究する。

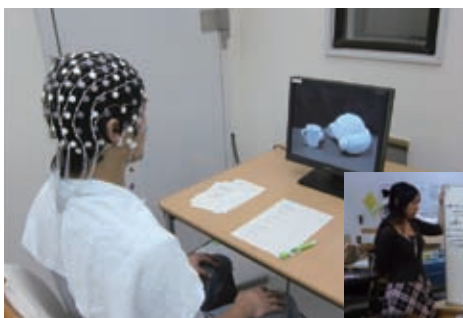
## 概要

感性は安全・安心で心豊かな生活を送るために必要な心の機能であるにもかかわらず、その複雑さゆえ、真理を探究する自然科学の研究領域から除外されていました。感性科学コースでは、感性を心の感受性ととらえ、感覚および感情の研究を通して、価値基準の基盤となる感性を探究します。

感性の機能を解明して得られる価値基準は、科学技術立国としての日本にとって国際的競争力を有する高付加価値製品群の開発などに資すると共に、共感、感動や信頼などのコミュニケーションを研究、構築していく上で重要となります。

## 育成する人材像

- ・感性という観点から人の生理・心理的な測定・分析・評価を行うことのできる人材を育成します。
- ・技術開発や製品開発に感性科学のエビデンスを活かすことのできる人材を育成します。



※最新の脳波計測システムを使った感性評価の実験風景



※環境適応研究実験施設（大橋）  
光・温度・気圧などあらゆる環境を人工的に作り出すことができる実験棟です。

## 在校生の言葉

感性科学コースはバランスよくヒトの感性について学ぶことができる点が特徴と言えます。

当コースでは、共感性や美的感覚に代表される感性を、主に脳活動、自律神経系、内分泌系などの生理的指標を用いて客観的にとらえることを課題としています。加えて、そこに心理学的・人文的素養や人間性がなければ不十分です。そこで、実習を通して機材や指標の活用を実践的に身に付け、座学によって心理学や哲学、美学などを体系的に学んでいます。またフィールドワークを通して生身の人間と触れ合い、通じ合う感動を経験することができます。

私たちは、近年重要性を増す学際的な視点をもってヒトを科学する人材として社会に貢献することを目標としています。

## 専任担当教員

氏名	職	所属	地区
綿貫 茂喜	教授	芸術工学研究院	大橋
森 周司	教授	システム情報科学研究院	伊都
樋口 重和	教授	芸術工学研究院	大橋
金 亮 奎	准教授	芸術工学研究院	大橋

# 感性コミュニケーションコース

## 感性を基盤としたコミュニケーション力・共感力の育成

### 概要

急速なデジタルテクノロジーの進展によってもたらされた多様で簡便なコミュニケーションが、我々を取り巻く人間関係や自我の領域に歪みを生みだし、多くの「心」の問題を引き起こすひとつの要因ともなっています。教育や医療、地域コミュニティなどのさまざまな現場に従事する者たちにとって、「感性」に着目することにより、たがいのコミュニケーション力や共感力を高めたり、芸術的な体験にふれることによって自らの「感性」を育むなかで、現代の「心」の問題を解決する糸口が得られるかもしれません。

感性に基づく気づきやコミュニケーションに向けられた情報や専門的知識、芸術的な体験の統合を探究していきます。

### 育成する人材像

- ・多様なユーザーを支援し、感性を育む快適で安心できる居場所とコミュニティ、製品、サービスや知的財産を創造したり、さまざまな芸術的な社会活動において活躍できる人材を育成します。
- ・感性を基盤としたコミュニケーション力・共感力のある豊かな人材を育成します。



### 在校生の言葉

感性コミュニケーションコースには、さまざまな年齢、業種、専門の人たちが集まっています。授業のグループワークでは、各々の体験や専門性を活かしながら、また学生同士のコミュニケーションからも多くを学んでいます。

また教授陣の専門もバリエーションに富み、音楽、本、医療、ファシリテーションと様々な選択肢の中から自身の専門性を伸ばすことができると思います。このような教授陣によって展開される授業は時にお互いの専門性を越境しながら進められます。

学生間、教授間の密なコミュニケーションから新しい学びが日々生まれるのが感性コミュニケーションコースの特徴です。

### 専任担当教員

氏名	職	所属	地区
南 博文	教授	人間環境学研究院	箱崎
藤枝 守	教授	芸術工学研究院	大橋
當眞 千賀子	教授	人間環境学研究院	箱崎
坂元 一光	教授	人間環境学研究院	箱崎
加藤 和生	教授	人間環境学研究院	箱崎
濱田 裕子	准教授	医学研究院	病院
三島 美佐子	准教授	総合研究博物館	箱崎



# 感性価値クリエーションコース

ユーザーの感性的な価値を抽出・形成・評価する手法と、一連の過程を統合するマネジメントについて学ぶ。

## 概要

社会が求める価値は今日、ものの機能・信頼性・価格といった客観要素から、人の心地・感覚・感動といった感性的・主観的なものに移行しつつあります。本コースでは、価値の創造を、人の感性と行動に着目しながら、作り手・売り手・使い手の取り組みの連鎖としてとらえ、ユーザーの感性的な価値を抽出・形成・評価する手法と、一連の過程を統合するマネジメントについて学びます。

感性価値を引き出すマーケティングやブランディングなどの企画力、感性の価値を表現するアートやデザインによる創造力、感性評価を客観的に評価する判断力の特性に着目し、文理の区分を超え、多様な専門分野の人材に開かれたプログラムとなっています。

## 育成する人材像

- ・これまでの技術起点に基づく製品・商品・サービス開発のありようを、人の感性に基づく心の充足・感動・共感という価値創造へと転換し、産業や地域社会、生活を革新していくことのできる人材を育成します。
- ・産業界や地域社会の多様な分野において、ユーザーの感性と行動を踏まえ、潜在的ニーズを具現化する新しい価値領域を拓いていくことのできる人材を育成します。



## 在校生の言葉

感性価値クリエーションコースを一言で表すと、「なんでもあり」コースです。コースメンバーの背景も全員バラバラ。留学生が多いこともあり、多様な価値観を持つ者同士が集まっているので議論がいつも盛んです。時には熱くなりすぎて時間を忘れてしまうことも。こうした環境の下、学生たちはそれぞれ自分の課題にそって研究活動に励んでいます。

まだ、できたてほやほやの大学院なので、色々な壁にぶつかることも多々ありますが、そうした障壁も楽しめる、そんなコースです。

## 専任担当教員

氏名	職	所属	地区
森田 昌嗣	教授	芸術工学研究院	大橋
清須美 匡洋	教授	芸術工学研究院	大橋
坂口 光一	教授	工学研究院	箱崎
池田 美奈子	准教授	芸術工学研究院	大橋
樋口 明彦	准教授	工学研究院	伊都
曾我部 春香	准教授	芸術工学研究院	大橋
田北 雅裕	講師	人間環境学研究院	箱崎
佐藤 剛史	助教	農学研究院	箱崎

# Project Team Learning (PTL) とは

学生主導によるチーム学習によって、問う力、考える力、共感する力、協働する力、表現する力を身につける。

ユーザー感性学専攻では、「プロジェクト・チーム・ラーニング (PTL = プロジェクトチーム演習)」という独自の教育メソッドを導入し、授業科目の1つとして、実社会が抱える問題の解決にチームで取り組んでいます。

PTLは、教員主導・講義中心の伝統的な教育形式から、学生主導によるチーム学習によって、問う力、考える力、共感する力、協働する力、表現する力を身につけることを目的としています。

文理の壁を超えて、社会現場の問題にプロジェクトベースで取り組む教育プログラムは、国内外でも例が少なく、ユーザー感性学専攻の独特な試みとして位置づけられます。

## PTLとは？

これまでの「HOW (どうつくるか)」に基づく知識習得から、「WHAT (何をつくるか)」を軸とした思考や問題設定のセンスを体験学習を通じて獲得していくという教育方法論に「プロジェクト・ベースト・ラーニング (PBL = 問題設定解決型学習法)」があります。PBLは、現在、看護学教育や工学教育など、多岐にわたる分野で導入・展開されています。ユーザー感性学専攻の「PTL」は、この「PBL」の進化型として、教育改革を目指しています。

## PTL導入の背景

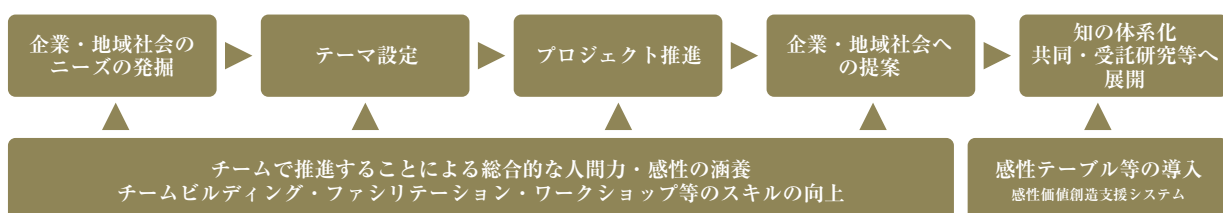
今日、企業、行政、地域を問わず、社会が直面する問題はますます複雑化し、ユーザー、消費者、市民のニーズは成熟化、多様化しています。こうしたなかで、社会に貢献し、価値創造を牽引する人材は、専門的な知識に加え、社会の変化をリードする豊かな構想力と実践力、さらに多様な分野の知識を統合し、チームをまとめ、プロジェクトを推進していく人間力が求められます。また、社会が直面する問題の解決にあたるためには、大学を中心に蓄積された学術知と社会に蓄積された経験知を実践的に統合していく必要があります。

## その効果は？

企業や行政の現場において、問題設定、現場観察、仮説抽出、必要な知識の探索と統合、実践、振り返り、提案のとりまとめ、という一連のプロセスにチームで取り組むなかで、学生は、問う、観る、考える、共感・協働する、表現するなどの人間力を総合的に涵養していくことができます。

また、社会人学生は、多様な背景と専門を持つ人との協働を通じて、自らの経験と知識を異なる視点から体系化していく契機をつかむことができます。そして、そこにある問題を知り、問題解決のイメージを立て、必要な知識が何であるかを知り、チームをつくり協働していくことが主体的に推進できるようになった人材は、社会のあらゆる領域においてプロとしての活躍が期待されます。

## PTLの流れ



## 「PTL」の進化のポイント

- ・医学、工学といった個別領域における展開にとどまらない、専門領域横断や文理融合を志向する教育法であること
- ・人間理解を深めるためのリベラルアーツ講座を開催し、チーム学習の意義づけを並行して実施すること
- ・企業や行政と共同でプログラムを実施し、現場で問題を設定し、成果を現場に還元していくスタンスを重視すること
- ・感性を起点に多様な知識を探索・統合するために開発したツール「感性テーブルシステム」を活用すること

# PTLの事例

## リハビリ環境の支援プロジェクト（平成23年度） 樋口重和 教授

脳卒中回復期の入院患者はリハビリ訓練以外の多くの時間を病院で過ごします。この時間の過ごし方が患者のQOL (Quality of life) に関わり、病気の回復にも影響すると言われています。福岡市内の病院と共同で患者の自由時間の過ごし方と病棟環境とのより良い関係を検討します。また、近年リハビリ訓練を支援するゲームの開発が進んでいます。感性科学的な視点からゲームの効果についての検証も実施します。



## 子どもホスピスプロジェクト（平成22年度） 濱田裕子 准教授

子どもの病気やいのちについて考え、子どもホスピスが社会に受け入れられる土壌をつくるためのプロジェクト。在宅療養をしている子どものQOL向上を目指して事例に関わり、検討し、今後継続して子どもホスピスプロジェクトが提供できる難病の子どもとその家族の生活を豊かにする仕組みをつくります。



## 焼酎文化のリ・デザイン提案（平成24年度） 坂口光一 教授

「酒（焼酎）」の新しいありかたを研究します。焼酎そのものではなく、焼酎の新しい文化とライフスタイルの提案が目的です。古来、神事や祭祀、儀礼になくはならない存在であった「酒」。その原点に立ち還り、「礼」の精神を尊び、願をかけ、契をかわすためのシンボリックな存在として、焼酎のリ・デザインを探索していきます。【研究成果は平成25年2月に「Enjoy九州 & Enjoy 九州」という提案としてまとめ発表しました】



## 「まちの写真屋」を考える（平成22年度） 田北雅裕 講師

デジタルカメラへの移行に伴い、地域コミュニティの思い出やつながりに関与してきた「写真屋」が激減しています。写真を記録媒体や芸術表現としてのみではなく、コミュニケーションを媒介する装置と捉えなおし、生活文化としての写真・写真屋の歴史的考察やフィールドワークから「写真屋」の今日的意義を明らかにし、「写真屋」が持続していくための仕組みや商品、道具を提案するプロジェクト。



## 物語を読み、語り、つくり、批評し、物語に子どもを探す（平成22年度） 日黒実 人間環境学研究院 特任教授

ギリシャが民主主義を社会化しようとしたとき、同伴したのがギリシャ哲学の言葉による対話であり、演劇による身体表現とクロスという音楽であり、ギリシャ芸術だった、と。その背後には壮大な叙事詩と抒情詩による「物語」があった。魅力的な社会をつくるために、それを支える過去、現在、未来の物語の構造と役割について、読み、語り、つくり、批評の方法を探ります。



## ハコザキに「声」と「響き」とどける（平成22年度） 藤枝守 教授

九州大学箱崎キャンパスやその周辺のコミュニティに「語りの場」や「響きの場」を企画するプロジェクト。箱崎地区のアートスポットを舞台にしたトークイベント「ハコザキ・ボイス」や「箱崎現代音楽祭」を企画・運営することによって、語りや音楽という表現行為がコミュニティをどのように活性化させ、土地がもつ固有性にあらたな価値を与える有用性をもちうるかという実験の現場ともなっています。



## 川環境向上に向けてのデザイン提案（平成22年度） 森田昌嗣 教授 / 曾我部春香 准教授

憩いの場であると共に多くの危険をはらむ河川空間では、河川情報を分かりやすく迅速に利用者に伝えるシステムの構築、また親水空間の整備が進む河川における標識の景観的な配慮が求められます。本プロジェクトでは、景観財としての価値を持ち、わかりやすく情報を提供できる河川標識を中心にデザイン提案を行い、国土交通省九州地方整備局に対しプレゼンテーションをします。



## My Desk is my Castle-私の机は私のお城（平成22年度） 池田美奈子 准教授

独ケルンのデザイン大学KISDとのコラボレーション。ドイツ、日本、台湾、エジプト、ブラジル、中国、スペインなどの大学が参加する国際プロジェクトで、デザインの定性リサーチの手法を用い、各国のさまざまな職場で働く人たちの机を観察し異文化比較を行いました。最終的には巡回展と出版を予定しています。



## SMP 商品開発プロジェクト（平成22年度） 清須美巨洋 教授

3種の素材、石・金属・ダンボールの各メーカーに対して新しい生活道具を提案します。商品企画からデザイン、試作、ネット販売までの一連の流れを企業とともに共同開発し、製品化を目指します。社会や企業に対してスピーディーかつ精度の高い提案をするためのトレーニングをする実践プロジェクト。



## その他（平成22年度の実績）

福岡・釜山における両都市ガイドブックの制作  
中長距離バス営業所の仮眠室・休憩室改善のための調査  
唐泊地区ブランディング  
絵本カーニバルの企画運営  
病院に居る子どもの環境設定に関する研究  
イグサ商品ブランド形成

# 開講科目（修士課程）

本専攻の科目群（カリキュラム）は、コース相互の有機的な関連を持ち、各自の問題意識と学習計画に応じて組み合わせることが可能になっています。従来の学問の横断・統合と感性科学、感性コミュニケーション、感性価値クリエーションの実践的な能力形成を図るために、多彩なカリキュラムが用意されています。

## ●学府共通科目

授業科目名	単位数
科学の統合方法論	1

## ●専攻共通科目

特別研究		ユーザー感性学基礎		PTL・インターンシップ	
授業科目名	単位数	授業科目名	単位数	授業科目名	単位数
特別研究（1）	2	感性科学概論	2	ユーザー感性学PTL（感性科学Ⅰ・Ⅱ）	各2
特別研究（2）	4	感性コミュニケーション概論	2	ユーザー感性学PTL（感性コミュニケーションⅠ～Ⅳ）	各2
		感性価値クリエーション概論	2	ユーザー感性学PTL（感性価値クリエーションⅠ～Ⅳ）	各2
				インターンシップ	2

## ●コース専門科目

感性科学コース		感性コミュニケーションコース		感性価値クリエーションコース	
授業科目名	単位数	授業科目名	単位数	授業科目名	単位数
感性人類学	2	生涯発達心理学	2	次世代感性産業論	2
人間発達学	2	異文化間コミュニケーション論	2	ブランド価値創成論	2
心理物理学	2	感性表現論	2	情報価値編集論	2
感覚生理心理学	2	実践子ども学	2	関係のデザイン論	2
感情生理心理学	2	現代子ども文化論	2	景観価値形成論	2
適応行動論	2	小児家族看護学	2	自然環境価値形成論	2
感性生理学	2	チャイルド・ライフ・スペシャリスト論	2	地域文化デザイン論	2
感性心理学	2	小児・家族コミュニケーション演習	2	クオリティカルテ価値評価論	2
美学	2	ファシリテーション演習	2	プロジェクトマネジメント論	2
感性哲学	2	実践形成型フィールドワーク演習	2	感性価値認知論	2
感覚生理心理学演習	2	創造的ディスカッション演習	2	ユーザー参加型デザイン論	2
感情生理心理学演習	2			感性価値抽出論	2
				感性マーケティング論	2

## ●修了要件

以下に挙げる単位を含む36単位以上を修得すること。

「学府共通科目」1科目1単位、「特別研究」2科目6単位、「ユーザー感性学基礎」2科目4単位、

「PTL・インターンシップ」2科目4単位、自らが履修するコースの「コース専門科目」5科目10単位

上記の科目以外の（a）ユーザー感性学専攻の授業科目、（b）本学府他専攻の授業科目、（c）他学府の授業科目を11単位以上。

ただし、（b）および（c）の授業科目で課程修了の要件となる単位に含めることができるのは、6単位までとする。

# 開講科目（博士後期課程）

博士後期課程では、「ユーザー感性学」に関するより高度で統合的な教育研究を行うために、本専攻修士課程にある3つのコースの専門性を「特化」させるだけではなく、それぞれのコースを積極的に「統合」することも目的としています。

博士後期課程では、修士課程で身に付けた実践型の能力に加えて、研究型の能力を身に付けるための教育を行います。

## ●特別研究

授業科目名	単位数
ユーザー感性学特別研究	12

## ●分野専門科目

授業科目名	単位数
感性科学特論	2
感性コミュニケーション特論	2
感性価値クリエーション特論	2
上級PTL演習A	2
上級PTL演習B	2
上級PTL演習C	2

## ●修了要件

ユーザー感性学特別研究（1科目12単位）を含む12単位以上を修得すること。

本専攻は、学生個々人の特性に照らして修学させることを基本方針としているため、学年学期毎に習得すべき単位の条件は設けていません。ただし、必要に応じて、専門領域毎に開設される特論と上級PTL演習、さらには修士課程における開講科目を受講することが望まれます。

## 博士後期課程の専任教員

氏名	職	専門領域
綿貫 茂喜	教授	感性科学
森 周司	教授	感性科学
樋口 重和	教授	感性科学
金 亮 奎	准教授	感性科学

氏名	職	専門領域
南 博文	教授	感性コミュニケーション
藤枝 守	教授	感性コミュニケーション
清須美 匡洋	教授	感性価値クリエーション
池田 美奈子	准教授	感性価値クリエーション

## 資料：在籍学生数

平成24年11月1日現在

修士課程		博士後期課程 1年	博士後期課程 2年	合計
1年	2年			
34名 社会人(8) 留学生(8)	41名* 社会人(6) 留学生(3)	6名 社会人(2) 留学生(2)	8名 社会人(2) 留学生(2)	89名

\* 41名の中には21年度及び22年度入学の長期履修者等8名を含む  
( )内はうち数を示す

# 入試案内（修士課程・博士後期課程）

## 入学者選抜の概要

### ●アドミッションポリシー

次のような資質と問題意識を持つ人材を対象として入学者選抜を行います。

- 1) 専攻の専門にかかわる諸問題を学際的に解決し、社会に成果を還元したいという意欲を有していること。
- 2) 社会において先導的役割を果たしたいという意欲を有していること。
- 3) 柔軟な発想力、基本的なコミュニケーション能力、幅広い教養を有していること。
- 4) 社会人にあっては、企業や地域社会での経験、問題意識を大学において理論的に進化、体系化させたいという意欲を有していること。

## 修士課程について

### ●選抜方法

入学者の選抜は、本学の入学資格を有する方を対象に、経験、問題意識、思考力、将来計画などを総合的に評価します。そのため、過去の業績や実績、入学後の研究計画、卒業後の進路計画からなる出願書類審査と口頭試問を行います。

### ●定員

30名

### ●社会人学生

本学の大学院への入学資格を有する方で、原則3年以上の実社会での経験がある社会人については特別選抜を行います。選抜は選抜書類、口頭試問で行います。

### ●外国人学生

本学の大学院への入学資格を有する外国人には特別選抜を行います。選抜は日本語についての試験、出願書類審査、口頭試問で行います。

## 博士後期課程について

### ●選抜方法

今までの教育・研究内容および今後の研究計画について英語でのプレゼンテーションおよび質疑応答を行い、出願書類に基づき経験、問題意識、思考力、将来計画等を精査します。

### ●定員

4名

**入学資格、入学試験の制度や実施形態は変更される可能性があります。**

**入学試験に関する最新の情報については、本専攻の Web サイトにおいても案内しますので、あわせてご覧ください。**

<http://www.ifs.kyushu-u.ac.jp/>

# 産学／地域連携・共同研究

ユーザー感性学専攻では、地域社会や産業界と連携した、新しい切り口の共同研究のあり方を追求しています。大学が有する多様な学問分野における高度に専門化した知を「感性」という軸を中心に統合することで、社会や企業の課題に創造的な解決策を提示できると考えるからです。

多様な専門分野の研究者が集うユーザー感性学専攻の特徴を最大限に生かし、独創的な地域連携・共同研究プロジェクトを積極的に推進します。

## 共同研究の例

### ●感性科学コース

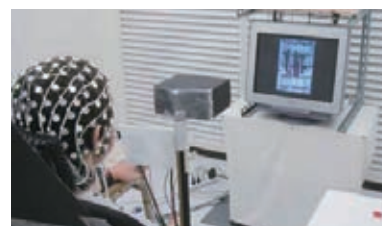
高付加価値製品の開発を目指した企業との共同研究

綿貫茂喜 教授・金尙奎 准教授／パナソニック株式会社、ゲンゼ株式会社

旭化成株式会社、ダイハツ株式会社、ソニーPCL株式会社など

美術館展示における感性・脳科学的アプローチ

樋口重和 教授／大日本印刷株式会社 ルーブルDNP



### ●感性コミュニケーションコース

ハコザキ・ボイス、笹崎現代音楽祭

藤枝守 教授／福岡市東区箱崎地区のコミュニティ

子どもにやさしいまちづくり

南博文 教授／福岡市内NPOグループ

子育て・親育て・コミュニティ育てプロジェクト

當眞千賀子 教授／茨城県水戸市の公立保育所

福岡子どもホスピスプロジェクト

濱田裕子 准教授／ユーザー感性学専攻院生等・一般市民

ミュージアムと科学コミュニケーションのプロジェクト

三島美佐子 准教授／福岡県下のミュージアムおよび自治体・活動団体



### ●感性価値クリエーションコース

おもてなしのユニバーサルデザイン - イオンモール羽生サイン計画

森田昌嗣 教授・曾我部春香 准教授／イオンモール株式会社／株式会社ユーコム

企業ブランドプロジェクト

清須美匡洋 教授／株式会社三松

NYと博多をつなぐ「心のダンス」プロジェクト

坂口光一 教授／HAKATA TON TON

小石原焼の食器デザイン開発プロジェクト

池田美奈子 准教授／Studio Shirovani／小石原焼陶器職人（カネハ窯、ヤマイチ窯、早川窯元）

九州の河川に設置されている標識類の整備に関するプロジェクト

曾我部春香 准教授・森田昌嗣 教授／国土交通省九州地方整備局河川部／EPIデザインネットワーク／(株)PAS計画

杖立温泉街のまちづくり支援「杖立ラボ」プロジェクト

田北雅裕 講師／九州工業大学 景観研究室／杖立温泉観光協会／熊本県小国町



## 共同研究に関する窓口

1) 共同研究・受託研究の相談または問い合わせは、直接教員にご連絡いただくか、教員の連絡先が分からない場合は、事務にお問い合わせください。

【ユーザー感性学専攻事務】

電話: 092-642-7355・7069

E-mail: uks@jimu.kyushu-u.ac.jp

2) 受託研究、共同研究の契約などの詳細な情報、九州大学の技術シーズ、産学連携に関する情報等については、九州大学知的財産本部のWebサイトに掲載されています。

<http://imaq.kyushu-u.ac.jp>

# 専任教員の紹介

## ◎ 感性科学コース



教授 芸術工学研究院 大橋

感性刺激に対する中枢、自律、免疫反応の連関性  
感性・感動に関する生理人類学的研究  
【keyword】 感性科学 / 生理人類学

綿貫茂喜 WATANUKI Shigeki



教授 システム情報科学研究院 伊都

ヒト認知の心理物理学  
言語理解の認知科学  
【keyword】 認知科学 / 認知心理学 / 心理物理学

森周司 MORI Shuji



教授 芸術工学研究院 大橋

感性の社会的・生物学的な意義 - 共感・模倣の脳科学 -  
目に見えない光の影響 - 光と健やかな眠りの研究 -  
【keyword】 進化・適応 / 生理人類学

樋口重和 HIGUCHI Shigekazu



准教授 芸術工学研究院 大橋

美に関する生理人類学的研究  
感情・共感の生理反応特徴に関する研究  
【keyword】 感性科学 / 生理人類学

キム・ヨンキュ KIM Yeon-Kyu

## ◎ 感性コミュニケーションコース



教授 人間環境学研究院 箱崎

都市環境との感性的な交流（トランザクション）の深層分析  
シンボル形成の理論：夢・想像・創作のフィールドワーク  
【keyword】 こども / 居場所 / 感性コミュニケーション

南博文 MINAMI Hirofumi



教授 芸術工学研究院 大橋

「聴くこと」から見出せる環境との相互性  
文様 / 装飾に基づく音楽的思考  
生命体との連鎖が体感できる場の創出  
【keyword】 実践的音律論 / 作曲 / サウンド・リスニングアート

藤枝守 FUJIEDA Mamoru



教授 人間環境学研究院 箱崎

子育て・親育て・コミュニティ育てプロジェクト  
社会的養育・保育・子育て現場における発達臨床的研究  
体験型子育て支援実践の開発  
【keyword】 社会・文化・歴史的営みとしての発達 / 形成的フィールドワーク

當眞千賀子 TOMA Chikako



教授 人間環境学研究院 箱崎

産育と教育に関する比較文化的研究  
民族文化の構築・継承に関する研究  
【keyword】 子ども文化 / 民族文化 / 文化継承

坂元一光 SAKAMOTO Ikko



教授 人間環境学研究院 箱崎

自己過程の人格・社会心理学的研究  
対人関係(特に、愛着、甘え、虐待、ディスカッション)に関する研究  
【keyword】 自己 / 対人関係学 / 愛着 / ディスカッション

加藤和生 KATO Kazuo



准教授 医学研究院 病院

難病の子どもと家族のヘルスプロモーションに関する研究 /  
子どもと家族の居場所に関する研究  
【keyword】 小児看護 / 家族看護 / 子どもホスピス

濱田裕子 HAMADA Yuko



准教授 総合研究博物館 箱崎

感性的な博物館とは - 作り手と利用者双方の立場から - /  
大学博物館のあり方と教育に関する研究  
【keyword】 博物館 / 標本 / 科学コミュニケーション

三島美佐子 MISHIMA Misako



## ◎ 感性価値クリエーションコース



教授 芸術工学研究院 大橋

都市環境装置のパブリックデザイン方法・評価に関する研究  
生活空間およびエレメントデザイン方法・評価に関する研究

【keyword】 パブリックデザイン / デザイン評価

森田昌嗣 MORITA Masatsugu



教授 芸術工学研究院 大橋

購買行動に影響するデザイン手法  
シナジーブランドデザイン研究

【keyword】 ブランドデザイン / IMC デザイン  
プロモーションデザイン

清須美匡洋 KIYOSUMI Masahiro



教授 工学研究院 箱崎

ユーザーの視点に立った感性価値創造の理論及び事例の研究  
プロジェクトチーム学習の教育メソッド研究

【keyword】 ユーザー / 感性 / 感性価値 / イノベーション

坂口光一 SAKAGUCHI Koichi



准教授 芸術工学研究院 大橋

現代生活に適合した伝統工芸デザイン  
街の情報編集と発信

【keyword】 情報デザイン / 現代デザイン  
デザインリサーチ / デザイン批評

池田美奈子 IKEDA Minako



准教授 工学研究院 伊都

美しい風景を修復・創造するための方法論の研究  
まちづくりと社会基盤整備についての研究

【keyword】 美しい風景の修復と創造 /  
環境デザイン / まちづくり

樋口明彦 HIGUCHI Akihiko



准教授 芸術工学研究院 大橋

感性価値に着目し、デザイン評価のズレを導きだす  
デザイン評価システム「クオリティカルテ」に関する研究

【keyword】 デザイン評価 / 感性 / 価値

曽我部春香 SOGABE Haruka



講師 人間環境学研究院 箱崎

幸福感を基礎にした「まちづくり」の方法論の研究  
熊本県杖立温泉街のまちづくり・情報デザイン

【keyword】 まちづくり / 地域文化デザイン / 景観計画 /  
情報デザイン

田北雅裕 TAKITA Masahiro



助教 農学研究院 箱崎

循環型社会と資源循環型農業の構築に向けた理論的・実証的研究

【keyword】 循環型社会 / 農業環境政策 / 地域政策 / 景観

佐藤剛史 SATO Goshi

### 教育研究の理念

ユーザー感性学専攻の教員は、芸術工学研究院、工学研究院、人間環境学研究院、システム情報科学研究院、総合研究博物館等において教育・研究実績のある教員、あるいは豊富な実務経験を持つ教員で編成されています。

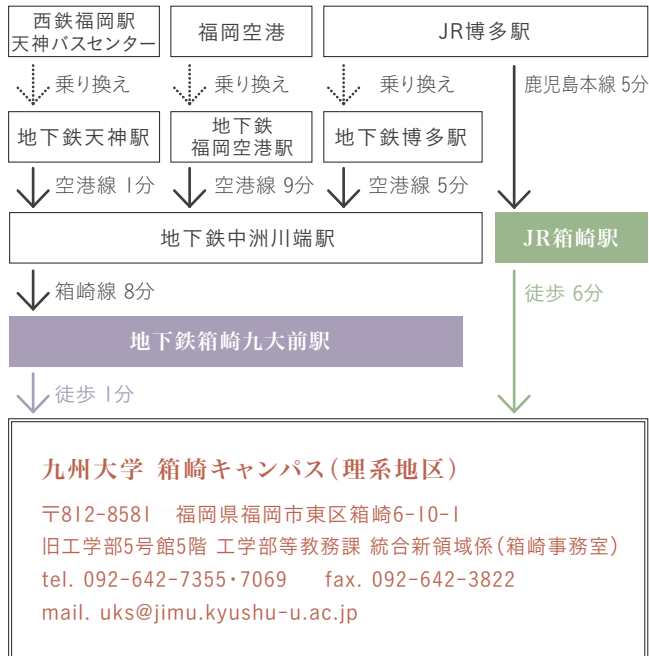
実践と理論、科学技術と芸術文化、応用と基礎を俯瞰しながら、ユーザー感性学を構築し人材を育成していくことが本専攻の課題です。それにふさわしい使命感と情熱を専攻一丸となって醸成していくため、全ての教員は以下のことを常に意識し、共有しながら教育研究に励んでいます。

- 1) 自らの専門領域のみならず、他領域の研究者や実務家と対話しながら、ユーザー感性学という新しい教育研究分野を構築していくという意識を持つこと。
- 2) 専攻組織内での意思疎通やチームワーク推進に向け、相互のコミュニケーションを積極的に求め、感性を扱う大学院にふさわしい組織文化づくりに励むこと。
- 3) 感性をめぐる人材育成と価値創造を基に、大学と社会、学問と実践の間に生き生きとした関係をつくっていくという、社会との連携意識を強く持っていること。
- 4) 感性を基に社会各層で活躍できる次世代のリーダーを育成していくという、後進育成に情熱を傾けること。

# 交通アクセス

## 箱崎キャンパスへのアクセス

### 福岡空港・JR博多駅から箱崎キャンパスへのアクセス



### 最寄りの駅から箱崎キャンパスへのアクセス



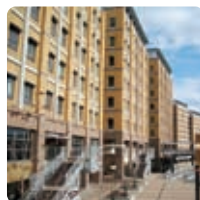
## キャンパスマップ



## 他のキャンパス情報



**大橋キャンパス**  
 〒815-8540  
 福岡市南区塩原4-9-1



**伊都キャンパス**  
 〒819-0395  
 福岡市西区元岡744番地



**九州大学病院**  
 〒812-8582  
 福岡市東区馬出3-1-1





九州大学大学院統合新領域学府  
ユーザー感性学専攻

〒812-8581 福岡市東区箱崎6-10-1  
TEL 092-642-7355・7069

<http://www.ifs.kyushu-u.ac.jp/>

ユーザー感性学専攻のロゴについて;

U(User)、S(Science)、そして、K(Kansei)のそれぞれの文字を取り入れました。感性が含意する、あらゆる領域との関係を横断する「ゆらぎ」や「あいまい性」の象徴として「雲」をモチーフとしています。